

コロナ禍での社会的孤立をなくす工夫も必要

コロナ禍で介護サービスの利用控えが起きた

練馬区はこの3月に「通所サービス調査報告書」をまとめました。介護の通所サービスを利用されている人のうち、3519人分の2020年2月と5月の状況を比較するものです。

特に2020年の最初の緊急事態宣言時、コロナ感染対策のため、介護サービスの利用を控える人が増えました。自宅で過ごす時間が増え、人に会う機会が減ることで、筋力や認知機能の低下などが懸念されます。

そこで、特に外出して人に会い体を動かす機会である通所サービスの利用控えがどのくらい起きているのか、区が実態を把握するために調査が行われました。

このページの一番下にある表は、調査報告書から抜粋したものです。2月と5月を比べると、回数を減らすだけではなく、まったく利用をやめている人も多くいることがわかります。こうした利用控えは要介護度が低いほど顕著であり、利用回数を減らした、亡くした人の数は要支援で5割を超え、要介護1・2でも3割です。

り活動が止められ、公共施設も休止されましたが、感染対策のためとはいえ、あまりに活動を止めてしまうと孤立が起こればつまず懸念があります。そこで、その後は図書館などの公共施設も極力開所されるようになりました。介護サービスの利用控えも少なくなってきたといえますが、完全に解決したわけでもありません。

左ページの表は、区の介護保険の実績の資料から私がまとめたもので、2020年1月、5月、2021年1月、5月を比較したものです。要介護認定を受ける人は微増傾向ですが、通所サービスの利用は2020年1月の状況ままでは戻っていないことがわかります。区の報告書には、

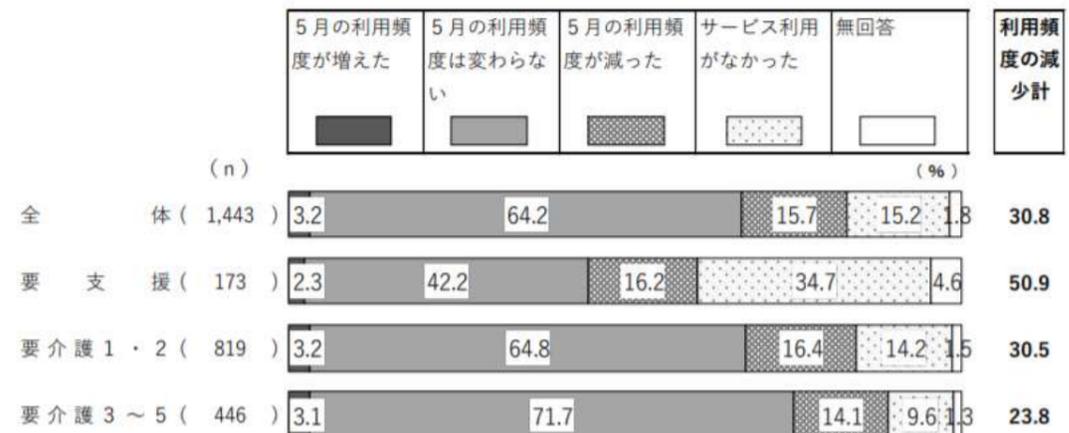
- ・持病があったり、マスクをするのが苦しいため通所サービスが利用できない
- ・コロナが収まったらまた行きたいと思っていられるけれど、収まらないままなので活動できなくなっていました
- ・億劫で外に出たくなくなりました

といった思いを持つ人もいることが書かれています。左表の数値からも、コロナをきっかけに外出できないままの状態にある人が今もいらいっしやるのが推測されます。

サービスを利用されていない人にはお手紙や訪問、電話などによる支援もありますが、完全な代替にはなりません。コロナが長期化する中で、より工夫が必要と考えます。

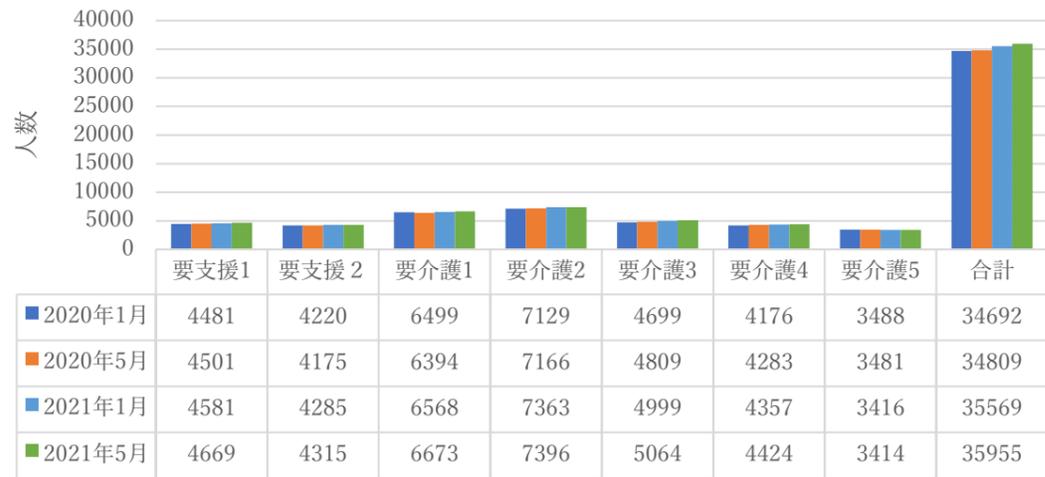
○通所介護の利用頻度の変化を要介護度別にみると、「利用頻度の減少計」は、『要支援』で半数、『要介護1・2』で約3割、『要介護3～5』で2割超と、要介護度が軽度になるほど利用頻度が減る傾向がみられた。

令和2年2月と5月の利用状況の変化<通所介護：要介護度別>



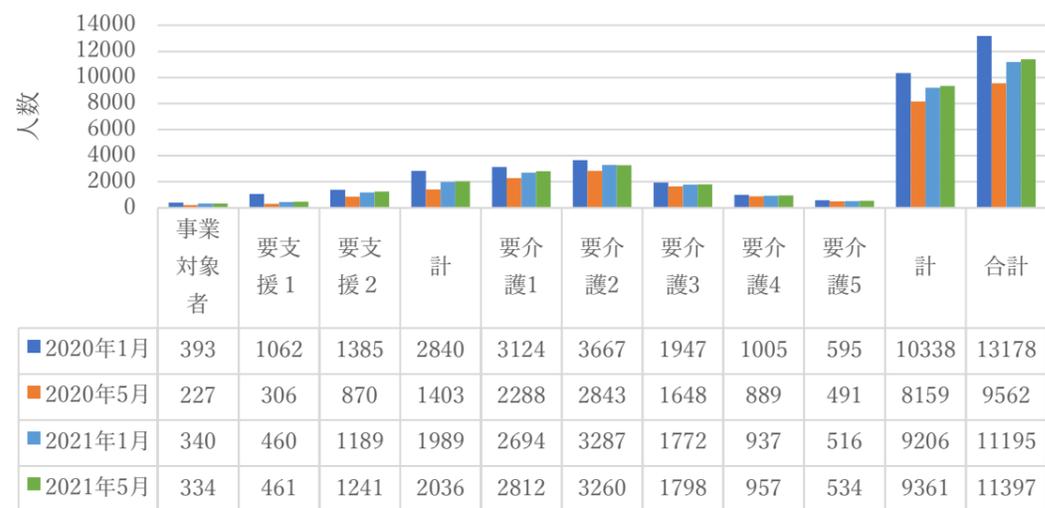
「練馬区通所サービス調査報告書」
(2021年3月)より

要介護認定者の数



左の2つの図は、練馬区の介護保険実績報告からかとうぎ桜子がまとめたもの

通所サービスの利用状況



かとうぎ桜子 区政報告会のご案内

11月28日(日)午後2時～4時

☆会場:練馬区立勤労福祉会館 会議室大 (練馬区東大泉 5-40-36)

☆オンライン配信(YouTube)

<https://youtu.be/1lxwKyA8CGE>



コロナ禍でしばらく対面型の報告会、勉強会を休止しておりましたが、今回は初めて、対面型とオンラインを併用する形での報告会を行います。ぜひご参加ください。また、YouTubeには録画も残しますので、ぜひご覧ください。

【内容】

- ・9月、10月の議会の概要
- ・精神障害のある人の地域包括ケアについて

